

認知機能不全とは

医療の発展や暮らし方の変化などからわんちゃん、猫ちゃんたちが長生きできるようになってきました。しかし、加齢に伴って脳が酸化ダメージを受けて障害されてきていることが明らかになっています。

《症状》

初期では「単なる老化かな？」と思うような症状で、気づかれにくいですが、認知機能不全を見逃さないために、以下の症状に注意してみましょう。

● 見当識障害

- よく知ってる場所で迷う。
- いつも通るドアが開く方向が分からなくなる。
- 目的無さそうにウロウロする。
- 家具の影などで身動きが取れなくなる。
- 名前を呼んでも反応が鈍い、あるいは反応しない

● 家族とのかかわりの変化

- 遊びたがらない。飼い主の注意を引こうとしない。
- 家族の帰宅時に喜んで出迎えなくなる。
- 食事前の「オテ」などの命令には従わないが食事に執着する。

● 睡眠あるいは行動の変化

- 眠っている時間が長くなる。
- 昼夜逆転（日中に眠り、夜に動き回る）

● トイレトレーニングの失敗

- トイレではない場所で、排尿または排便する。
- 散歩から帰ってすぐに、家の中で排尿または排便する。
- 外に出たい、と意思表示しなくなる。
- 飼い主の目の前で粗相をする。

《治療》

残念ながら完治が出来ない疾患です。**症状が進行してしまうと治療をしても症状が改善しにくい**ため、**初期症状に気づいて早期治療を行うことが一番です。**

治療の目的は、生活の質を改善すること、本人やご家族の不安を最小限にしていつも通りの生活を送ることです。

◆ 内科治療

- ① 抗酸化成分（ビタミンEや脂肪酸）のサプリメント
- ② 抗うつ剤や認知症改善薬
- ③ 抗不安成分（ミルクプロテイン）のサプリメント
- ④ 鎮静剤・睡眠導入剤

◆ 食事療法

抗酸化成分を強化したフードや脳の栄養になる中鎖脂肪酸を配合したフードが勧められます。

◆ 生活の中でできること

- ・昼夜逆転している子は、日光浴が有効です。日光を浴びることで睡眠時のホルモンが分泌されます。
- ・できる範囲で運動をしましょう。体力を使うことで夜に眠くなったり、筋力の維持、寝たきり予防になります。



進行すると、夜中にひどく吠える、いつの間にか脱走して家に帰れなくなる、グルグルと旋回行動をしながら家具に頭をぶつけ続けるなどの症状が現れ、ご家族も疲れ切ってしまいます。

本人も強い不安を抱えながら生活することになってしまいます。

「最期まで介護することが美德」と考えがちですが、みんなが笑顔で過ごせないようになってしまうと、それはお互いに苦痛になってしまいます。

ありがたい気持ちを十分に伝えたくて眠らせてあげることも選択肢のひとつです。